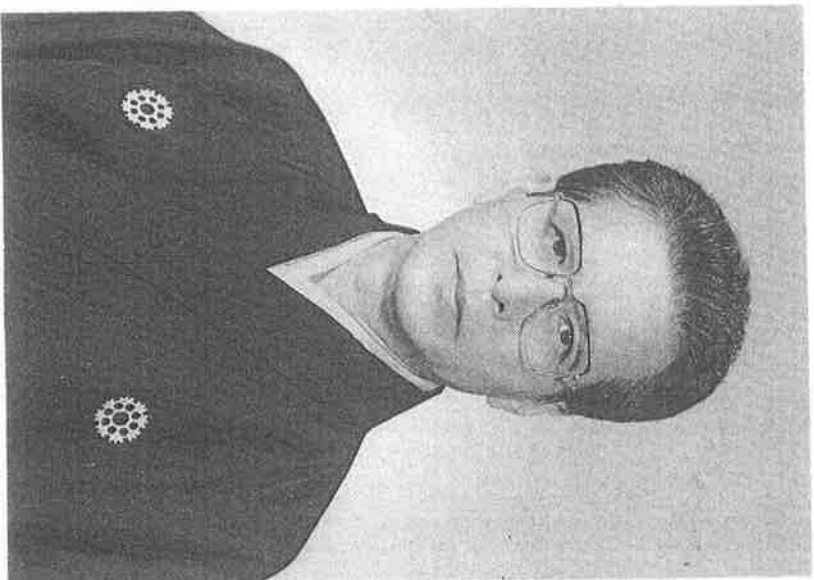


狩野丹秀（地域文化活動部門）



能樂師

昭和十二年生まれ

これまでの活動歴

南フランスのエクスアンプロバンス市から能楽公演の依頼があった折り、定期的公演実現のために、所蔵していた能舞台をエクサンプロバンス市に寄贈することとなった。ヨーロッパで唯一の本格的能舞台「狩野記念能楽堂」の誕生である。

平成六年の六月八日から三日間、柿落とし能公演が行われたが、イギリス、イタリア、スイスからも見物客が詰めかけ、用意された三〇〇席では足りない盛況となり、会場は「アラホー」の興奮が渦巻いた。

また、能舞台に触発された書道、茶道、生け花、琴及び着物着付けの五団体が文化交流団として同行し、柿落とし公演と同時に催された「くまもとウイーク」は、市をあげての協力があり、大成功を収めた。

この能楽堂は、日本文化がヨーロッパや世界へ広がる拠点として重要な役割を担っており、狩野丹秀氏の「能楽を世界に広めたい」「文化交流の架け橋にしたい」という熱意と実行力の賜である。

今後も、更なる能楽の普及や後継者の育成はもとより、国際文化交流の面でも広く活躍が期待されている。

- ・能楽喜多流の芸を継承、昭和三十三年喜多流宗家（東京）に入門し、昭和三十七年喜多流職分として独立した。
- ・昭和四十一年に能楽研究団体「三つの木の会」を設立主宰し、熊本にて能楽を若い人々の中に普及する運動を始め、現在に至る。
- ・昭和六十一年、重要無形文化財「能楽」の保持者認定を受け、日本能楽会員となる。
- ・昭和六十三年に「桐光会」を設立主宰する。
- ・平成元年に熊本県能楽協議会副会長に任命され、公立能楽堂建設運動の推進者の一人として指導力を発揮している。
- ・平成三年には、フランス公演を縁として南フランスのエクスアンプロバンス市に能舞台を寄贈し、平成六年六月に柿落とし公演が行われている。